

自治体の婚活支援増加

相談会や出会いの場創出

人口減・少子化対策で注目

「婚活支援」事業を積極的に展開する県内の自治体が増えている。19市町村のうち14自治体が現在、結婚相談会、出会いの場の創出などに取り組んでいる。人口減少の歯止め、少子化対策を図る上でも、若者が集う施策はキーポイントで、注目を集めている。

大山町は本年度の婚活支援事業費を従来の4倍にあたる200万円に増額した。2010年国勢調査で町内の30代独身男性は48・5%。近隣の伯耆町が43・2%。南部町は44・2%。2町に比べても4～5割も高かった。

た。大山榊水高原は「恋人の聖地」（静岡県NPO認定）であり、町は男女の出会いを積極的に後押し。境港市は昨年度から安来市と共催で、親による代理お見合い会を開催。鳥取市など県東部4市町は、兵庫県の2町と一緒に組織する「コリドー21」の主催で、出会いイベントを企画し、広域化を図っている。

米子市も今秋、婚活イベントを展開。11月には中心市街地を舞台にミッシェン（使命）をクリアするチーム対抗戦のイベント「トライアスロンIくらぶ」を立ち上げ

県内自治体で未実施は南部、江府、日野、三朝、日吉津の5町村。自治体の婚活支援は今

具体的な施策は、出会いパーティーを企画する民間団体への支援のほか、結婚推進員が相手を紹介する相談会、自己研さんセミナーなどを実施した。町

未来づくり戦略室の担当者は「婚活を切り口に、若者や団体を発掘し、まちづくりへの機運と愛郷心が高まれば、良いのだが」と、事業の狙いを明かす。

後もヒートアップする傾向にある。